

エゾムシクイ

Phylloscopus borealoides

ウグイス科・夏鳥



エゾムシクイ（円内写真は類似種のセンダイムシクイ）
（イラスト：タカダヒロキ）

名前の由来

エゾ(北海道)のムシクイの意。ムシクイは「虫食い」で、昆虫食であることから。「むしくひ」はかつて「ウグイスの老鳥」「ホトトギス類」を指していたという。
漢字名：蝦夷虫食

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種)
草花

(外来種)
草花

哺乳類

(水辺)
鳥類

(草原・樹林)
ワシ・タカ

形態的特徴

全長（くちばしの先から尾の先まで）11.5cm。スズメよりも小さい。体の上面は濃茶褐色。白い眉斑(眉毛の様な斑)がある。胸と腹は少し汚れた白色。

声：「ヒーツーキー、ヒーツーキー」と高い声でさえざる。

生息環境・分布

低山帯から亜高山針葉樹林までで繁殖し、谷間に近い樹林を好む。

分布：サハリンと日本で繁殖し、冬は東南アジアに渡って越冬する。

日本では夏鳥として、北海道、本州中部以北、四国で繁殖。

類似種と見分け方

メボソムシクイ、センダイムシクイ。

メボソムシクイ、センダイムシクイとも褐色味が薄く、メボソムシクイは腹が黄色味を帯びる。外見はかなり似ているが、さえずりで区別できる。

食性・他生物との関わり

昆虫食。樹林内で枝から枝へと飛び移りながら飛びついて捕らえる。

捕食者は猛禽類など。

繁殖生態

繁殖期は5～7月、斜面の岩の間や木の根の下などのくぼみに、メスのみが巣を作る。4～6個産卵し、メスのみが約14日抱卵、オスメス共同(抱雛はメス)で約15日育雛する。

興味深い話・配慮事項

■よく似ているメボソムシクイとは採餌場所で棲み分けており、エゾムシクイは樹林の上層と下層、メボソムシクイは中層で採餌する。

■巣は外装がコケや葉で球形に作られ、内装には細い根やシダ類の根状体を用いられるという。

■よく茂った樹林とその下敷が大事である。

生活サイクル

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
十勝出現期					繁殖							
東南アジア(越冬期)	越冬											

参考文献

「原色日本野鳥生態図鑑(陸鳥編)」中村雅彦・中村登流、保育社 1995

「野鳥ブックス2 フィールドガイド日本の野鳥」高野伸二・谷口高司・森岡照明・叶内拓哉、(財)日本野鳥の会 1982(1994増補版7刷)

「北海道の野鳥」藤巻裕蔵・小堀煌治、北海道新聞社 1997

「山溪カラー名鑑 日本の野鳥」高野伸二 編、浜口哲一・森岡照明・叶内拓哉・蒲谷鶴彦 著、山と溪谷社 1985(1995 2版21刷)

「北海道鳥類目録改訂2版」藤巻裕蔵、帯広畜産大学野生動物管

理学研究室 2000

「十勝と釧路の野鳥」日本野鳥の会 十勝支部・釧路支部、1987

「図説 日本鳥名由来事典」菅原浩・柿澤亮三 編著、柏書房 1993

Nakamura, T. (1980) Ecological separation and adaptive space of warbler guild inhabiting the coniferous forest in Shiga Heights. Bull. Inst. Nature Ede. Shiga Heights, 19 : 45-59.